

普及活動情勢報告（平成29年12月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

イチゴの収量・品質の向上に向けて・・・幡多地区イチゴ生産者交流会の開催・・・	
	12月1日、幡多管内のイチゴ生産者16名が参加して、管内の生産者ほ場を見学する現地研修会と全農こうちなどを招いての講演会を開催しました。
バンカーシートについて説明中	農業改良普及課からは、ミヤコカブリダニバンカーシートの実証ほ場の状況や、幡多地区における環境制御技術の推進方向、県内外でのイチゴの環境制御技術普及状況について講演を行いました。
	生産者からは、「幡多全域の生産者が集まり交流する機会はなかなかないので、来年度もこの会を続けてほしい」との声が聞かれました。
イチゴでの環境制御とは	農業改良普及課は、今後も現地検討会を開催し、実証ほ場の調査結果など、収量・品質の向上に向けて情報提供していきます。

後継者・女性農業者の経営管理能力の向上・・・土佐文旦後継者・女性農業者講習会の開催・・・	
	11月24日、宿毛市宇須々木公民館で土佐文旦の後継者、女性農業者を対象に講習会を開催し、8名が参加しました。 農業改良普及課は、オランダの進んだ農業を参考にしてもらう事を目的としてオランダの視察報告を行いました。
オランダ視察報告	また講習会終了後、女性勉強会組織の設立協議を行い、農業改良普及課から女性だけの勉強会開催の必要性を説明し、意見交換を行いました。
	参加者からは「女性だけの勉強会があっていい」、「実際に管理している男性の話を聞くことで勉強にもなるのでそういう場もほしい」との意見が出されました。
女性勉強組織設立協議	農業改良普及課は、今後剪定講習会を開催し、基礎技術の習得・向上を目指します。

オランダ農業から学ぼう！・・・幡多地区環境制御技術研究会開催・・・	
 日本とオランダの 違いは？	11月28日、JA高知はた本所にて幡多地区環境制御技術研究会を開催し、生産者20名が参加しました。 今年オランダ視察に参加した生産者を含めた4名による視察報告、座談会を行い、その後、新田専門技術員による「環境測定装置の活用法」についての講演を実施しました。 参加者からは、栽培技術だけでなく労務管理についての質問が出るなど、関心の高さを感じました。 農業改良普及課は、今後も研究会活動を支援し、施設園芸産地の強化に取り組めます。

品質向上に向けて・・・JA高知はた宿毛支所イチゴ部会現地検討会・目慣らし会・・・	
 今年の イチゴの出来は？	12月4日、生産者9名が参加して、JA高知はた宿毛支所管内の生産者7戸を回る現地検討会と、出荷に向けて規格を確認するための目慣らし会を開催しました。 現地検討会では、宿毛支所イチゴ部会で試験的に栽培している新品種「恋みのり」について検討し、生産者同士で活発な意見交換が行われました。 また、目慣らし会では農業改良普及課から、12月1日に開催した幡多地区イチゴ生産者交流会の内容についての報告を行いました。 農業改良普及課は、今後も定期的に現地検討会を開催し、栽培時期に応じた管理方法の指導を行っていきます。

新規就農者の確保・育成・・・幡多地域新規就農者支援ネットワーク協議会開催・・・	
 中間評価の実施	12月6日、幡多地域新規就農者支援ネットワーク協議会を開催し、市町村、JA、県の担当者21名が出席しました。 新規就農者の確保から就農後の支援策について、また、農業次世代人材投資事業のサポート体制の整備・中間評価基準の設定状況などについて意見交換を行いました。 農業改良普及課からは、幡多管内の研修と就農状況、先進地視察についての報告と、幡多地域のPR活動について提案しました。 農業改良普及課は、今後も関係機関で情報交換を行い、新規就農者の支援について検討していきます。

ユズの産地化に向けて・・・三原村・村農業公社・農振3者協議開催・・・



先進事例調査



動画に見入る生産者

12月8日、三原村農村構造改善センターで、関係者10名でユズの産地化に関する課題解決について協議しました。

農業改良普及課は、ユズ園リースシステムの見直し案を提示しました。また、選果機の有効利用に向けてJA土佐香美物部支所の選果風景の動画を提供しました。

リースシステムは、提案の内容で後日JA高知はた、ユズ部会に意見を聞き決定することとなりました。また、選果機の現在の利用方法が機械の能力を十分生かせていないことを確認・共有できました。

農業改良普及課は、1月にリースシステムの決定、その後選果機の利用方法の見直しを検討していきます。

収量・品質の向上に向けて・・・JA高知はた三崎支所ブロッコリー一部会現地検討会開催・・・



今後の栽培管理
について情報発信中

12月11日、JA高知はた三崎支所管内の現地ほ場で、秋冬ブロッコリーの現地検討会及び目慣らし会を開催し、生産者14名、関係機関5名の計19名が参加しました。

今作は、11月上旬の天候不良による早生品種の生育不良、育苗期のヨトウ類による被害から、生育の不揃いなほ場が見られましたが、中早生～中生品種の生育はこれまでのところ順調です。

参加者から、ヨトウムシ類に対し殺虫剤が効きにくいとの声が挙がっていることから、農業改良普及課は、関係機関と連携し、効率的に防除指導を行っていきます。